



# 奥能登すず ヤッサー プロジェクト

2024年 活動報告



## 代表あいさつ

2024年元日の能登半島地震から1年余りが経過しました。珠洲市には全国各地から人が集まり、避難所の運営、二次避難希望者の移送、上水道や道路の復旧、仮設住宅の建設など、多岐にわたる支援が行われました。

奥能登国際芸術祭 2023では、約5万人がこの土地を訪れ、地域の住民と交流を深めました。珠洲に心を寄せる人々の声をうけて、アート作品・施設の修繕、再建、珠洲の復興の様子を記録・発信する「奥能登珠洲ヤッサープロジェクト」を立ち上げました。

2024年は、作品の点検や修繕、「一般社団法人サポートスズ」の再建のサポート、珠洲市の復興計画に向けた住民へのヒアリングをまとめ、アーティストや企業・団体による支援のコーディネート、助成金や作品販売会などによる資金調達などを行ってきました。

2024年の活動報告と2025年の計画をまとめました。忌憚のないご意見をお聞かせください。

道路や住宅といったハード面と同様に、食事や団らんといった交流の場も重要です。復興にむけては、珠洲に思いを寄せる方々の結びつきが力となります。

引き続き、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

2025年3月31日 代表 北川フラム  
(奥能登国際芸術祭総合ディレクター)



# 2024年度活動報告 目次

04 プロジェクト概要

05 2024年度の動き

06 活動紹介

06 奥能登国際芸術祭アート作品の修繕  
07 拠点施設の再開  
08 ちゃべちゃべサロン  
09 復興の歩みの記録  
11 奥能登珠洲復興支援アート販売会

12 会計報告

13 2025年度の活動方針と予算

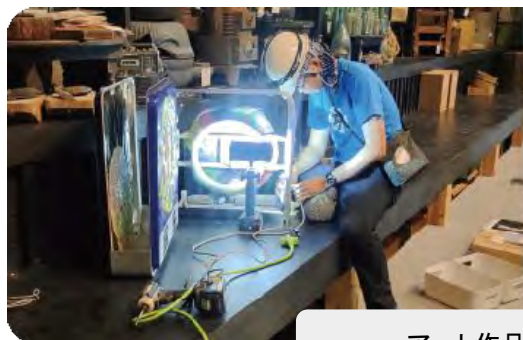
14 資料編

14 作品の被災状況報告  
18 令和6年能登半島地震被害概要  
19 令和6年能登豪雨被害概要  
20 珠洲の一年

## 奥能登珠洲ヤッサープロジェクトについて

文化芸術活動を軸に珠洲の復興支援を行います。芸術祭作品の修繕や拠点の復活、ツアーの企画を通じて、地域内外の人々が交流できる場を作ります。また、珠洲の復興の歩みを記録し、WEBサイトで発信するとともに、アーカイブをつくり、一人ひとりの記録を地域の記憶と歴史に変え、次世代へと継承していきます。

## ▼プロジェクトの4つの主な柱



アート作品の修繕



拠点施設の再開



復興の歩みの記録と発信



ツアーのコーディネート



## ▼事務局

株式会社アートフロントギャラリー

〒150-0033

東京都渋谷区猿樂町29-18 ヒルサイドテラスA棟

一般社団法人サポートスズ

〒927-1215

珠洲市上戸町北方2-19-3 珠洲市産業センター2Fサポートスズ事務所

お問い合わせ先

okunotosuzu@artfront.co.jp

公益財団法人  
小笠原敏晶記念財団

## 2024年度の動き

震災直後から一年間の活動を、大きく3つの時期にわけて振り返ります。

## 第1期 \* 状況把握と応急処置

## 第2期 \* 交流の場づくり \* アーカイブの準備

## 第3期 \* 豪雨被害への対応 \* 各活動の継続

1月～

4月～

10月～

### 珠洲でのできごと

- ・1月1日令和6年能登半島地震発生
- ・1月1日自衛隊派遣活動開始
- ・3月25日公費解体の本受付開始

- ・復興計画策定委員会開催(5月、7月)
- ・5月頃から水道復旧しはじめる
- ・8月31日自衛隊撤退・豪雨後再び派遣
- ・9月21日奥能登豪雨発生

- ・復興計画策定委員会開催(11月)
- ・12月15日自衛隊撤退
- ・復興計画がまとまる

### アート作品の修繕

- ・アーティスト・関係者への報告
- ・被災直後の応急処置、片付け
- ・関係者と修繕方針・計画の検討

- ・被災作品の修繕
- ・アーティストそれぞれの復興活動をサポート

- ・豪雨被害への対応
- ・積雪前の最終作業

### 芸術祭拠点施設の再開

- ・被災直後の応急処置、片付け
- ・関係者と修繕方針・計画の検討

- ・8/10潮騒レストランの再開
- ・9/21豪雨により潮騒レストラン営業休止

- ・大谷地区の食卓をリサーチ
- ・レストラン営業再開にむけたメニューの開発

### ちゃべちゃべサロン

- ・復興計画のための関する意見集め
- ・交流の場づくり、ワークショップ開催

- ・復興にむけた意見をまとめ、珠洲市復興本部へ提出

### 復興の歩みの記録と発信

- ・WEBサイトやSNSの運営開始
- ・震災後の珠洲の定点観測など

- ・北川フラム塾「震災から考えるアートとアーカイブ」
- ・珠洲市に住む方への取材や記事の執筆

- ・奥能登アーカイブの拠点準備

## 奥能登国際芸術祭アート作品の修繕

震災発生直後は人命救助が最優先され、市内の移動も困難な状況だったため、震災から約2週間経った1月13日から、作品の点検および応急処置を始めました。積雪や道路崩落により通行止めとなっている会場もあり、作業には時間がかかりました。3月下旬には全作品の確認を終え、4月以降は作家や地元の工務店、建築家とともに修繕箇所の確認や費用見積もりを行い、具体的な修繕方法を検討しました。

9月21日に発生した能登豪雨により、新たに5箇所の作品や施設が土砂災害を受けました。9月末に作品・施設の被災状況を確認し、10月以降は泥かきなどの応急処置や修繕方法について検討しました。  
(活動日数:約40日間 人工:延べ約200人)

1月～3月  
点検・応急処置

4月～9月  
修繕作業  
費用の見積もり

10月～12月  
豪雨被害への対応  
積雪前の最終作業



## 拠点施設の再開

2015年に閉校した珠洲市立西部小学校跡を活かした「スズ・シアター・ミュージアム」は、2021年に地域の民具を収集・保存・活用をしていく劇場型博物館としてオープン。小学校の食堂があった場所には、海を臨む「潮騒レストラン」が2023年にオープンしました。珠洲で受け継がれてきた生業、風土、食を味わえる拠点施設です。  
両施設とも、地震の被害を受けました。珠洲市内外の方が再び訪れ、交流の場となるよう再開をめざし修繕を行いました。

スズ・シアター・ミュージアム  
建築改修設計：山岸綾朝騒レストラン  
建築設計：坂茂

## ＝スズ・シアター・ミュージアム＝

4月までに建物の補修、散乱した作品や民具の片付けなどの応急処置を終え、以降は開館に向けた整備を行いました。ミュージアムに関係する8名の作家も現地を訪れ、作品の修復やメンテナンスに取り組みました。



出展アーティスト：南条嘉毅、世界土協会、OBI、大川友希、竹中美幸、三宅砂織、橋本雅也  
(現bacilli)

## ＝潮騒レストラン＝

2月から片付けと整理を進め、8月1日には水道が復旧。8月10日からは週に3日程度で営業再開しました。工業者やボランティア、大谷地区の住民のために、ランチタイムに日替わり定食やデザート、コーヒーを提供しました。  
(8月：13日間、9月：11日間営業 計481人の来客数)  
復興計画に関する意見ヒアリングのためのワークショップも開催しましたが、9月21日の能登半島豪雨による水害の影響で、水道が再び使えなくなり営業を休止しました。



## ちゃべちゃべサロン

ちゃべちゃべサロンは、珠洲市の復興計画策定にあたり、公式の地区説明会では拾いきれない若者や移住者の意見をまとめてほしいという珠洲市のリクエストを受けて始まりました。NPO法人ガクソーと協働し、珠洲市内、金沢の8拠点でワークショップ開催し、集まった意見を12月23日に珠洲市に提出しました。

(ワークショップ参加者計 185名 / 珠洲市へ提出意見数 161件)

### 潮騒レストラン | 珠洲市外浦拠点



7月10日、8月17日、9月15日開催  
70名参加

### 海浜あみだ湯 | 珠洲市内浦拠点



7月15日、8月18日、11月10日開催  
41名参加

### ガクソー待合室 | 金沢拠点



7月7日、7月10日、7月14日、  
8月4日、8月11日、8月18日開催  
74名参加

珠洲市外浦拠点のようす

奥能登国際芸術祭参加作家を講師に招きながら、手を動かしながら話す機会をすることで、多様な意見の収集と地元住民が集まりやすい環境作りを目指しました。



「タイムカプセルをつくる」



「民具を使ったお茶会」



「ブティック・スズ」

## 復興の歩みの記録と発信

## ▼WEBサイト・Instagramでの発信

プロジェクトのWEBサイトでは、毎月の活動報告、珠洲に暮らす人たちへの取材記事、珠洲市内の17箇所での定点観測結果などを公開しています。

Instagramでは、関係者が主催するイベントの紹介に加え、奥能登国際芸術祭の参加アーティストから寄せられたメッセージ「珠洲に思いを寄せる」、潮騒レストランの店長が大谷地区の避難所のサポートで感じたことを綴る「大谷日記」、「珠洲だより」などを随時掲載しています。

WEBサイト



市内10築の定点観測



取材記事など



Instagram



珠洲だより

珠洲に思いを寄せる vol.1



嘉 春佳

(奥能登国際芸術祭 2023 参加アーティスト)

珠洲に思いを寄せる



イベント記事



大谷日記

あの日、豪雨の日のこと

大谷日記

## 復興の歩みの記録と発信

## ▼奥能登アーカイブ

珠洲市では震災前後で町の風景が大きく変わろうとしています。珠洲の市民、アーティスト、研究者などの記録を集め、珠洲の復興の歩みを未来に残すアーカイブを作成します。勉強会なども開催し、活動の方針や記録・保存・活用の方法、スタッフ体制、活動拠点について検討を行いました。

## 北川フラム塾 第32回「震災から考えるアートとアーカイブ」開催



東日本大震災で「わすれん！」というコミュニティ・アーカイブを実践したアートディレクターの甲斐賢治さんを講師に迎えました。市民が主体となる草の根のアーカイブについて、意義が語られました。特に、多様な視点から市民が記録することで豊かなアーカイブが形成されることや、記録を通じて震災の傷と向き合えること、住民自らの手で地域の歴史の形成に寄与し、そのことがまちづくりの力になるといった重要な視点が示されました。

## 奥能登アーカイブ 座談会開催



珠洲市の銭湯「海浜あみだ湯」の2階で、社会学者の吉見俊哉氏をはじめ、研究者、住民、ボランティアたちが集まり「奥能登のアーカイブ」をテーマに議論しました。吉見氏は地域の様々な事象がどのように歴史として記録されていくのかについて話題提供しました。続けて、地域の人々が震災後の珠洲で記録したものを発表し、被災の傷跡が生々しいドローン映像や被災前後の飯田商店街の写真などが紹介されました。参加者たちは、現場の目撃者として記録すべきという使命感と、撮影したものの扱いについての責任感の間で揺れ動いている様子が見受けられました。前段の吉見氏の話と後段の現実のギャップを埋めていくことが、課題だと感じました。

## 奥能登珠洲復興支援アート販売会

11月2日と3日、代官山猿楽祭に合わせて「奥能登珠洲復興支援アート販売会」を開催しました。奥能登国際芸術祭に参加した57組のアーティストから販売用の作品を出品していただきました。大勢の方に購入いただき、売上から送料などの経費を差し引いた約750万円を奥能登珠洲ヤッサー基金に寄付しました。

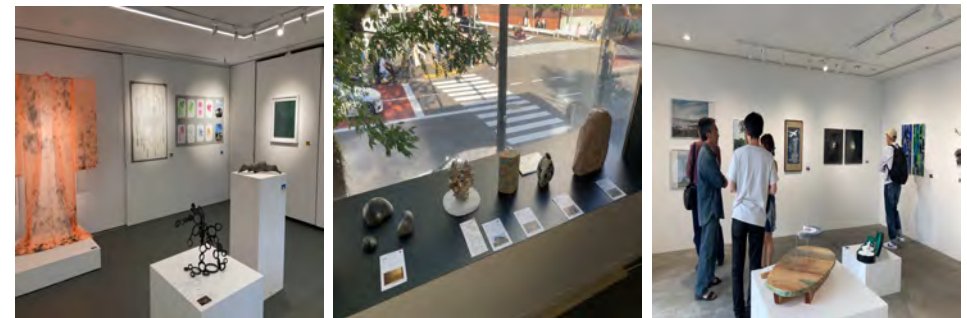
同日、ヤッサープロジェクトの活動報告会を開き、約30名の方にお越しいただきました。オンラインでも多くの方が参加されました。震災後の10か月間の活動を報告し、9月の豪雨による被害を含めた珠洲の現状や、ヤッサープロジェクトの今後の課題についても報告しました。

＝出品アーティスト＝

アナ・ラウラ・アラエズ、シリン・アベディニラッド、ファイグ・アフメッド、リチャード・ディーコン、カン・タムラ、カールステン・ニコライ、エコ・ヌグロホ、大岩オスカル、青木野枝、浅葉克己、麻生祥子、EAT&ART TARO、池田晶一、石川直樹、牛嶋均、植松奎二、梅田哲也、OBI、Ongoing Collective、奥村浩之、小野龍一、大川友希、尾花賢一、角文平、河口龍夫、金氏徹平、久野彩子、栗田宏一、小山真徳、SIDE CORE、佐藤貢、さわひらき、塩田千春、四方謙一、芝山 昌也、城保奈美、杉谷一考、鈴木泰人、高橋治希、泰然+きみきみよ、竹中美幸、中島伽耶子、南条嘉毅、Noto Aemono Project、のらもじ発見プロジェクト、橋本雅也、蓮沼昌宏、bacilli、眞壁陸二、三宅砂織、村上慧、村尾かずこ、盛圭太、山本基、弓指寛治、よしだぎょうこ、嘉春佳、吉野央子、カ五山 (アルファベット・50音順)

猿楽祭について

災害が起きても住む人、働く人、訪れる人が助け合って生き残れるまちづくりを目指して東京の猿楽町で始まった猿楽祭。20周年目の2024のテーマは「防災」。期間中はヒルサイドテラス周辺の店舗、大使館等より多種多様な出店があり、時折り楽器隊が自由に演奏に周る。その他イベントやワークショップ、珠洲市副市長の金田直之氏が登壇した猿楽祭シンポジウム「防災はコミュニティをつくる」なども開催。



## 2024年度 会計報告

・奥能登珠洲ヤッサープロジェクトの収支報告は下記の通りです。(期間2024年1月1日～12月31日)

## 収入内訳

費目	金額
<b>寄付金・企業からの協賛金</b>	
個人__90名	¥6,204,449
法人__8社	¥6,993,743
<b>行政・財団などからの補助金・助成金</b>	
財団__1社	¥11,000,000
<b>小計</b>	¥24,198,192
<b>事業収入</b>	
—	¥0
<b>合計</b>	¥24,198,192

## 支出内訳

費目	金額
<b>1.謝礼金・出演料・アーティストフィー・キャスト費など</b>	
イベント（パフォーマンス）出演料など	¥844,144
<b>2.会場費・設営費など（付帯設備費、機材費、美術費）</b>	
作品修繕費	¥179,431
宿舍運営費（賃料・光熱費・備品・消耗品など）	¥857,938
<b>3.旅費・滞在費・作品運搬費など</b>	
旅費交通費	¥2,593,252
経費（荷物運送費等）	¥9,894
<b>4.広告宣伝費</b>	
展示物・パンフ等製作	¥892,770
広告宣伝費（猿楽祭珠洲展示用）	¥14,481
<b>5.制作・マネジメント・スタッフ人件費など（委託料）</b>	
現地コーディネート委託料	¥1,110,509
<b>6.その他</b>	
支払手数料など	¥61,340
通信費	¥40,038
資料	¥3,260
会議費	¥17,254
<b>支出計</b>	¥6,624,311
<b>7.次年度繰越金</b>	¥17,573,881
<b>合計</b>	¥24,198,192

## 2025年度の活動方針

▼2024年度の活動を継承し、より深化させていきます。

### ●作品と拠点施設の修繕・活用

2025年度は、以下の作品および施設の修繕を予定しています。

- ・スズ・シアター・ミュージアム: 建物の修繕
- ・潮騒レストラン: 浄化槽の修繕
- ・スズ・シアター・ミュージアム分館: 建物の修繕
- ・アレクサンドル・ポノマリヨフ: ワイヤーの修復
- ・さわひらき: 作品、建物の修繕
- ・カールステン・ニコライ: 建物の修繕
- ・山本基: 建物の修繕、倒壊した塩の作品を活かしたワークショップ

これにより、16作品の公開準備が整います。(全体 23作品)

### ●復興の歩みの記録

奥能登アーカイブの拠点として、珠洲市飯田町に「スズ・レコード・センター」を2025年5月に開館します。(助成: JANPIA)  
珠洲を訪れた人々のインフォメーションセンターとしても機能します。写真や映像を撮るためのワークショップ、記録に基づく語り合い、記録物の展示会や語る会などを実施予定です。

### ●拠点施設の再開

潮騒レストランは2025年5月、スズ・シアター・ミュージアムは2025年夏以降の再開を目指します。

### ●ツアーのコーディネート

(一社)サポートスズが旅行業を取得し、珠洲市内のツアーのコーディネートをします。地区のお祭りやイベントなどの行事を共に準備するなど、地域内外が交流する場をコーディネートしていきます。  
また、地域のコンシェルジュとして、外部主催のツアーについても、ツアーコースのコーディネートやガイドや派遣を行います。

### ●コミュニティ再建のお手伝い

まちづくり計画が進行中の各地区で、地域行事を盛り上げたい、計画のためのサポートが欲しいなどの要望に対して、文化・芸術活動を通じてサポートします。現時点では、大谷地区、正院地区、飯田地区などの作業を予定しています。

## 2025年度 予算計画

収入内訳		2025/3/20時点
費目	金額	
<b>寄付金・企業からの協賛金</b>		
個人		¥1,000,000
法人		¥1,000,000
<b>行政・財団などからの補助金・助成金</b>		
財団ー1社		¥30,000,000
<b>小計</b>		<b>¥32,000,000</b>
<b>事業収入</b>		
ー		¥0
その他		
<b>前年度分繰り越し</b>		<b>¥17,573,881</b>
<b>合計</b>		<b>¥49,573,881</b>

支出内訳		
費目	金額	
<b>1.謝礼金・出演料・アーティストフィーなど</b>		
地域イベントのサポート		¥3,000,000
<b>2.会場費・設営費など（付帯設備費、機材費、美術費）</b>		
作品修繕費		¥8,000,000
宿舍改修費		¥5,000,000
アーカイブ活動拠点整備（改修費、機材費）、		¥5,500,000
宿舍運営費（賃料・光熱費・備品・消耗品など）		¥1,600,000
<b>3.旅費・滞在費・作品運搬費など</b>		
車両代、旅費交通費		¥8,000,000
<b>4.広告宣伝費</b>		
活動報告会開催、展示物製作費・運搬費など		¥900,000
<b>5.制作・マネジメント・スタッフ人件費など（委託料）</b>		
アドバイザー料（旅費交通費含む）		¥3,000,000
アーカイブ運営費（スタッフ2名+補助1名）		¥3,900,000
事務局人件費		¥2,400,000
現地コーディネート委託料		¥2,400,000
<b>6.その他</b>		
通信費		¥100,000
会議費		¥120,000
支払手数料		¥100,000
<b>支出計</b>		<b>¥44,020,000</b>
<b>7.次年度繰越金</b>		<b>¥5,553,881</b>
<b>合計</b>		<b>¥49,573,881</b>

珠洲市内には芸術祭の常設作品が 23点あります。

地震および豪雨によって、作品、建築そして作品の置かれた敷地へも被害は及びました。被害状況を報告します。

## ▼大規模損壊 地割れや土砂崩れ、周辺建物倒壊など被害が大きく、困難な修繕を含む

★震災後のようす

### 牛嶋均〈松雲海風解雲〉



周辺の土砂崩れにより落下  
一部湾曲みられる

### 中島伽耶子〈あかるい家〉



壁落下、建物全体の歪み、屋根瓦の落下、ずれ

### 浅葉克己〈石の卓球台第3号〉



作品自体に破損は無し  
周辺の地割れにより傾きあり

### 小山真徳〈ボトルシップ〉



周辺の地割れにより、作品が基礎ごと傾く

大規模な土砂崩れや地割れ等がおこり、作品、建物ともに被害を受けた。  
9月に発生した豪雨では、土砂の流入もあった。

珠洲市内には芸術祭の常設作品が 23点あります。

地震および豪雨によって、作品、建築そして作品の置かれた敷地へも被害は及びました。被害状況を報告します。

## ▼大規模損壊 地割れや土砂崩れ、隣家倒壊など被害が大きく、困難な修繕を含む

★震災後のようす

### アレクサンドル・コンスタンチーノフ〈珠洲海道五十三次〉(金箇所)



▲ 正院バス停  
バス停建物破損  
屋根瓦の落下・ずれ

▲ 川尻バス停  
バス停建物破損(隣家倒壊)  
屋根瓦落下・ずれ  
外側造形物の湾曲

▲ 能登洲崎バス停  
屋根瓦の落下、ずれ

▲ 笹波口バス停  
バス停建物破損  
屋根瓦落下、ずれ

実際に使われていたバス停を作品化したもの。  
バス停自体の破損も見られ、危険なことから冬前に撤去完了し、市内の別の場所で保管中。

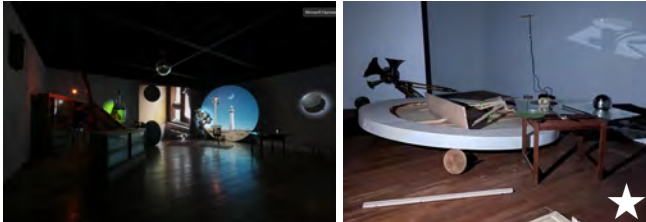
珠洲市内には芸術祭の常設作品が 23点あります。

地震および豪雨によって、作品、建築そして作品の置かれた敷地へも被害は及びました。被害状況を報告します。

### ▼ 中規模半壊 ②建物への被害が比較的少ない、中・長期的な修繕が必要

★震災後のようす

#### さわひらき〈幻想者"butterflyDream"〉



作品落下・破損、建物外壁破損、歪み、床下隆起  
豪雨により前庭への土砂流入、床下浸水

#### 山本基〈記憶への回廊〉



天井板落下、作品崩壊

#### スズ・シアター・ミュージアム〈光の方舟〉



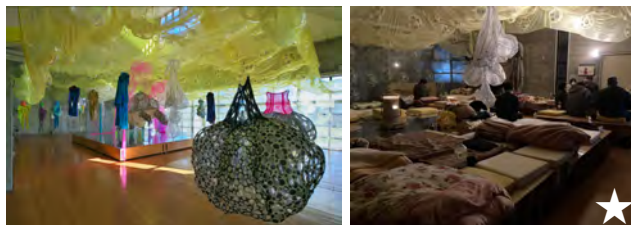
民具及び作品の落下・破損、建物外壁破損  
会場周辺に大規模な土砂崩れ、地割れ

#### カールステン・ニコライ(A)



壁と床に隙間、床下隆起

#### ひびのこづえ〈コスチューム×身体×スズカ〉



建物窓ガラス破損、壁面の歪み  
7月まで避難所として使用されていた

#### スズ・シアター・ミュージアム分館〈大蔵ざらえ収蔵庫〉



民具の落下・破損、展示棚の倒壊・破損、  
壁面一部湾曲(隣家倒壊の影響)  
9月の豪雨により一部土砂流入

珠洲市内各地、場所によって被災状況は異なる。  
9月の豪雨によってさらに被害を受けた作品も。

珠洲市内には芸術祭の常設作品が 23点あります。  
地震および豪雨によって、作品、建築そして作品の置かれた敷地へも被害は及びました。被害状況を報告します。

## ▼ 軽微な被害／被害なし

塩田千春〈時を運ぶ船〉



リチャード・ディーコン  
〈Infinity 41.42.43〉



トビアス・レーベルガー  
〈なにか他にできる〉



ラックス・メディア・コレクティブ  
〈うつしみ〉



奥村浩之〈風と波〉



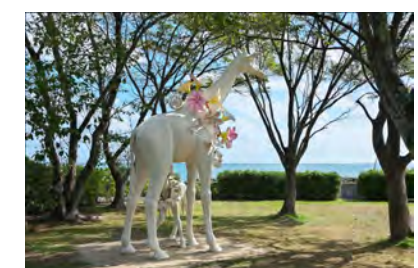
ラグジュアリー・ロジコ  
〈家のささやき〉



大岩オスカー〈植木鉢〉



N.S.ハーシャ  
〈なぜここにいるのだろう〉



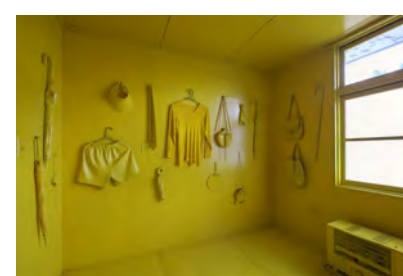
アレクサンドル・ポノマリョフ  
〈TENGAJ〉



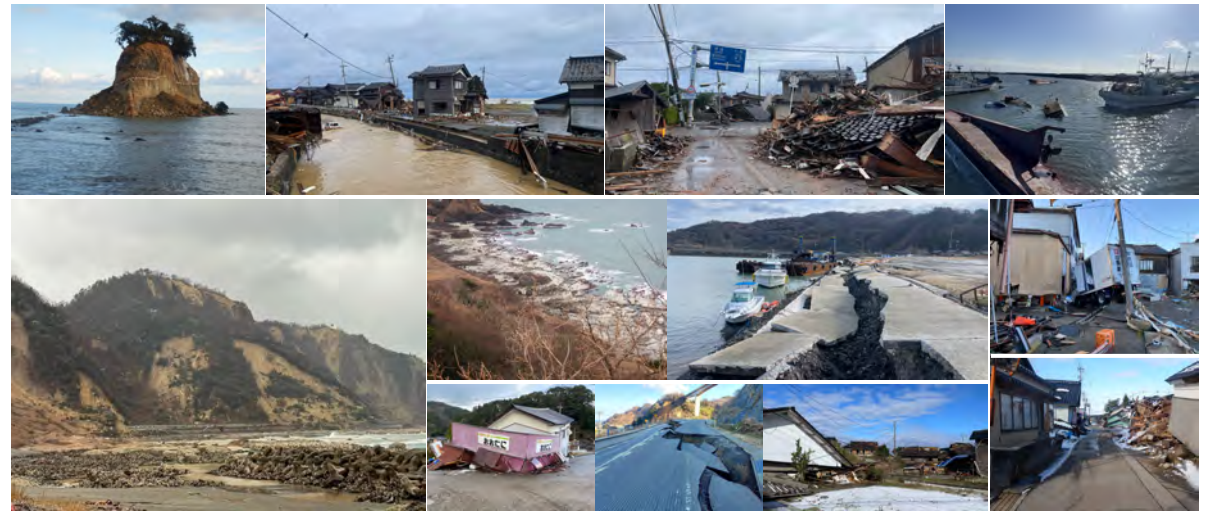
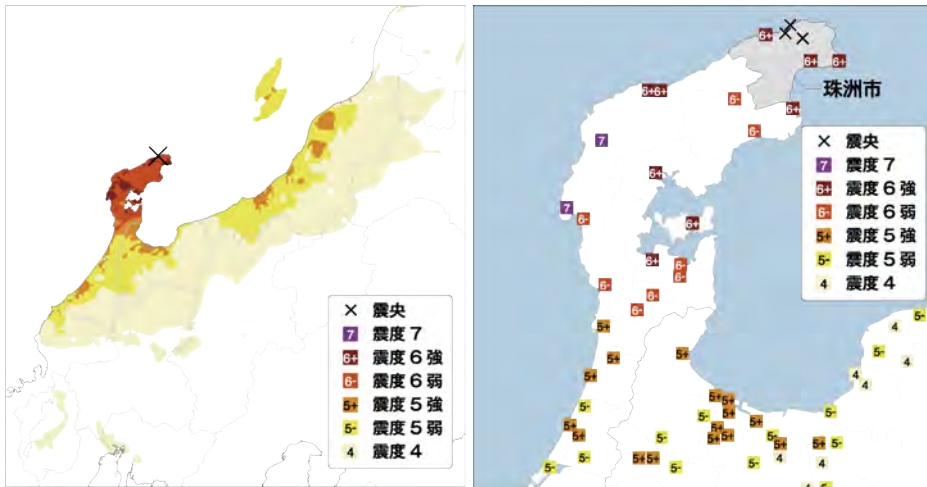
リュウ・ジャンファ  
〈漂移する風景〉



河口龍夫  
〈小さい忘れ物美術館〉



作品周辺では、海岸線の隆起、地割れなどが見られる箇所もあったが、作品自体の被害はまぬがれた。



[令和6年能登半島地震概要]

発生時刻:2024年1月1日16:10  
 震源地:石川県能登地方(北緯37.5度、東経137.3度)  
 地震の規模:マグニチュード7.6(暫定値)  
 地震の深さ:16km(暫定値)  
 地殻変動:最大で4.10mの隆起、1.48mの西向きの水平変動を確認

[震度]

震度7:輪島市、志賀町  
**震度6強**:七尾市、**珠洲市**、穴水町、能登町  
 震度6弱:中能登町  
 震度5強:金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町  
 震度5弱:白山市、津幡町、内灘町  
 震度4:野々市市、川北町

[津波]

珠洲市、能登町、志賀町の3市町で合計約190haの津波による浸水を確認。  
 特に浸水範囲の広い珠洲市における浸水深は、約4mに達したと想定。  
 1日 16:12 津波警報発表(石川県全域)  
 16:22 大津波警報に切り替え(能登地方)  
 20:30 津波警報に切り替え(能登地方)  
 2日 1:15 津波注意報に切り替え(石川県全域)  
 10:00 津波注意報解除(石川県全域)

[珠洲市の被災状況]

富山湾に面した沿岸部の内浦側の、宝立、上戸、飯田、蛸島、三崎では津波被害が大きく、港では船が転覆、海沿いの家屋、スーパーは一階部分をほぼ波にさらわれ、車両が建物に突っ込んだままの状態が各所で見られた。日本海に面した沿岸部の外浦では、最大で約4mの隆起が起こり、これまで海底だった部分が露出し、表出した部分は白くなり、海の風景が一変した。山間部を含め土砂崩れや道路の陥没などが各所で起こり、孤立集落も多数発生した。

死者:151人(うち災害関連死37人)  
 負傷者:249人  
 不明者:0人  
 市内開設避難所数:0カ所  
 市内避難所への避難者:0名(7122名)\*\*  
 住居被害 全壊17349 半壊2082 一部破損1748  
 断水:早期復旧困難地区(291戸)を除き解消(4800戸\*\*)  
 停電:ほぼ全域復旧(7400戸\*\*)  
 孤立集落:解消(14箇所以上)\*\*

◎仮設および復興住宅:建設完了1,718戸、計画/建設途中 22戸\*  
 ◎公費解体(受付開始3/25~):申請件数4,841件、解体実施済2,858件\*

参考

令和6年能登半島地震による人的・建物被害の状況について【第184報 令和7年1月21日14時00分時点】(石川県)  
 \*奥能登国際芸術祭実行委員会より(2025年1月時点)  
 \*\*ピーク時:2024年1月6日時点



9月20日頃から、東北地方から西日本にかけての広い範囲で、雷を伴った激しい雨が降った。石川県能登では、線状降水帯により大雨災害の危険度が急激に高まったことから21日に輪島市、珠洲市及び能登町に大雨特別警報が発表され、石川県の多いところでは20日から22日までの総降水量が500ミリを超え、9月の1か月間の平常の降水量の2倍を上回るなど、北陸地方や東北地方の日本海側では記録的な大雨となり、各地に甚大な被害をもたらした。

珠洲市においては21日午前中に、若山川、紀の川の観測所付近ではん濫が確認され9月29日の時点では石川県管理河川の20水系27河川において、氾濫による浸水被害が確認された。外浦側、および山間部では大規模な土砂崩れが起こり、家屋の一階部分がほぼ飲み込まれ、海岸線では土砂により道路がふさがれ、孤立集落が発生した。



豪雨により流入した土砂の掻き出し作業

### 〔石川県内被災状況〕（2024年10月9日時点）

死者	県内14名（輪島市10名 珠洲市3名 能登町1名）
住宅被害	全壊 輪島市10戸 珠洲市9戸 能登町1戸 輪島市・珠洲市では全6団地の仮設住宅で床上浸水
集落孤立	（9/23日時点） 輪島市内で40か所、珠洲市内で14か所 能登町 北河内、田代のあわせて2か所
停電	（9/24時点） 輪島市約2400戸 珠洲市約810戸 能登町約290戸 穴水町10戸未満
断水	輪島市763戸 珠洲市781戸（ピーク1750戸） 能登町 解消

### 開設避難所

輪島市：20箇所／406名、珠洲市：10箇所／55名、能登町：1か所／468名

### 参考

令和6年奥能登豪雨による被害等の状況について（第21報）【2024年10月9日現在】（石川県）

1月1日の地震から既に9カ月が経ち、インフラの復旧や住宅の片付け、公費による建物の解体などが進んでおり、仮設住宅にも徐々に入居が始まっていた。田んぼでは稲穂の成長が見られ、今年の秋には収穫が期待されていた。特に今回の豪雨で大規模な土砂崩れが起こった大谷地区では、集落の家屋一階が土砂に埋もれるなど、被害は甚大。2025年3月現在も、大谷地区では土砂の撤去が続けられている。



倒れた稲を刈り取るようす

1月28日～2月2日	作品	スズ・シアター・ミュージアム(以下STM)及び分館で、作品・民具の点検と保全作業。
2月9日	コーデ	珠洲市副市長の金田直之氏、経済同友会事務局長の岡野貞彦氏と打ち合わせ。 珠洲市の需要と同友会が供給できることのすり合わせをした。
2月9日～11日	作品	下記作品会場および、関連施設の建築の被災状況の確認及び修繕方針の検討。 ▶STM・STM分館、中島伽耶子作品、さわひらき作品、カールステン・ニコライ作品など。
2月10日～12日	作品	潮騒レストラン内部の食器・料理器具等の片付けおよび、今後の活用にむけた準備。
2月12日	作品	さわひらき作品会場の点検、展示作品の一部撤収作業。片付けと掃除。
2月16日	ア	さわひらきさん「クロストーク／奥能登の未来を想う」個展開催中のワタリウム美術館で、 クロストークの開催および奥能登地震被災者への募金箱を設置。
2月25日～29日	作品	STM床下基礎ずれへの修正等、建築部分の応急処置、耐震対策、作品・民具の保全作業。
3月9日	会	北川フラムが大谷地区の避難所訪問。大谷地区での今後の活動について打合せをした。
	コーデ	経済同友会の珠洲市との会議、珠洲視察をコーディネート。
3月12日～14日	作品	中島伽耶子作品の片付け、会場となる民家の補強。
	作品	積雪により延期していた小山真徳作品の点検。
3月13日	メディア	NHKラジオ「マイあさ!」で、珠洲およびヤッサープロジェクトの現状について報告した。
3月13日、14日	作品	建設業者とオンラインで繋ぎ、作品会場の修繕見積りも。(さわ、中島TM)
3月15日	ア	中谷ミチコさん:「BankART Life7 UrbanNesting:再び都市に棲む2024」において 作品販売の収益を能登半島地震義援金として珠洲市に寄付した。
3月18日	会	第41回北川フラム塾「芸術祭を横断的に学ぶ」珠洲及びヤッサーPJの現状について報告
	メディア	luckyFM茨城放送「ダイバーシティニュース」で、珠洲及びヤッサープロジェクト現状報告
3月27日	作品	ひびのこづえ作品の点検。会場が避難所として使われおり、部分的な点検にとどまる。
3月25日	珠洲	公費解体の本受付開始。
3月28日	作品	雪解け後、すでに応急処置等実施された作品の再度状況確認。
3月28日	会	泉谷市長、金田副市長、北川ディレクターの打合せ。 ヤッサープロジェクトの活動報告と月以降の活動方針について話した。

## ▲表の見方

記録	震災の記録作成・発信・WEBサイトについてなど
作品、拠点	芸術祭作品・拠点施設の修繕、管理
コーデ	外部支援団体と珠洲を繋げるコーディネート活動
メディア	PJ関係者の取材対応、メディア出演など
会	理事会、報告会など
珠洲	珠洲市内での出来事(意見交換会、祭事、道路復旧など)
コミュ	ちゃべちゃべサロンについて

ア 奥能登国際芸術祭に関連したアーティスト達の、独自の活動を一部ですが記載させて頂きました。

## ▲略称について

STM\_スズ・シアター・ミュージアム  
PJ\_プロジェクト  
AFG\_アートフロントギャラリー  
芸術祭作品について\_作品名ではなく、「作家名+作品」と記載しています。

## ▲内容について

情報を得られたもののみ記載しており、市内開催のお祭りや行事、アーティストの活動などは、すべて網羅できたものではありませんので、ご了承ください。

## 1月14,15,20,21日 ●芸術祭作品および施設の点検

珠洲市内にある芸術祭作品および施設の被災状況の点検を行いました。正院町飯塚集落のひびのこづえ作品《スズヅカ》は避難所として使用されており、若山町北山集落の小山真徳作品《ボトルシップ》は通行止めのため点検できませんでした。市内で断水・停電が広範囲に続いているなかで、今後の活動内容および宿泊場所など、活動継続の方法について検討を始めました。



## 1月10日 ●食料品配給支援のこと

移動スーパー「とくし丸」による避難所まわりの配給について珠洲市役所と調整を行い、10日から各避難所に野菜などが届くようになりました。「とくし丸」は大地の芸術祭もサポートするオイシックス・ラ・大地の子会社が運営。同社代表取締役の高島宏平さんが副代表を務める経済同友会からも支援の申し入れがあり、珠洲市との調整を行いました。



## 2月9～11日 ●建築修繕について

建築家の山岸綾さん(サークルアーキテクト)構造設計の田尾玄秀さん(縦建築事務所)とAFGスタッフが、STM、STM分館、中島伽耶子作品、さわひらき作品、カールステン・ニコライ作品、日置ハウス、旧珠洲市生涯学習センター(飯田地区)の建物の点検を行い、建物修繕の方針などをまとめました。



4月7日～11日	作品	小山真徳作品の応急処置。
	作品	STMの建築破損部分の応急処置後の点検、施設周辺の保全作業。
	作品	ラクス・メディア・コレクティブ作品の点検実験。
	手伝い	土砂災害を受けた家屋の、被災物撤去等の手伝い。
4月23日	会	北川フラム塾第30回「地方芸術祭と震災－奥能登を中心に」美術評論家の暮沢剛巳さんを招き、北川フラムと珠洲の現状と今後について対談した。
4月24日	メディア	NHK「視点・論点」に出演し、珠洲の状況を報告。
4月24日～26日	作品	STMのOBI作品の破損状況の詳細確認、修繕方法および民具の整理方針等の検討。 STM施設全体の整理とメンテナンス。
4月26日～5月26日	ア	橋本雅也さん金沢市柿木島にあるshirasagi/白鷺美術にて個展「燈す」を開催。 入場料金の全額と作品集等の売り上げを、令和元年能登半島地震の義援金として寄付。
5月14日	作品	山本基作品の点検、修繕方法の検討。AFG,作家)
5月19日	手伝い	馬縹地区で、解体の決まったお家の片付けをお手伝い。
5月19日～21日	作品	STM建築・周辺設備の修繕検討
	作品	さわひらき作品会場の修繕箇所の確認。
	作品	中島伽耶子作品会場の修繕箇所の確認、図面作成のために採寸。
5月22日	手伝い	大谷小学校の体育館で網戸製作。
5月31日～6月2日	作品	小山真徳作品の傾いた基礎の立て直し作業等、修繕作業。
	手伝い	集落の草刈り作業。
6月14日	他	一般社団法人RCF 休眠預金等活用事業2023年度緊急枠の助成金給付確定、 この日より事業の運営開始。
6月16日	会	芸術祭実行委員会総会において2023年の奥能登国際芸術祭の総括および地震による 作品被害状況の報告。芸術祭の関係者で立ち上げたヤッサープロジェクトが、作品の 修繕等できるかぎりの支援を行う旨を報告した。
	会	サポートズの理事会・総会開催 一般社団法人サポートズが採択された助成事業 「奥能登珠洲コミュニティデザインプロジェクト」をヤッサープロジェクトと共同して 実施する旨を決議。サポートズのスタッフも少しずつ復帰。
6月1日～14日	珠洲	地区住民意見交換会の第一回目が6月1日～14日にかけて市内全10地区で開催された。
6月12日	他	浅葉克己氏に、ヤッサープロジェクトのロゴ制作を依頼。
6月20日	記録	北川フラム塾第32回「震災から考えるアートとアーカイブ」開催。
6月24日～28日	作品	STM施設内の天井裏の鉄骨等の被災点検STM作品修繕、メンテナンス。
7月7日	コミュ	ちゃべちゃべサロン「学校って何だろうvol.1」開催。@ガクソー金沢支店
7月7日～9日	作品	STM作品修繕、メンテナンス。
7月10日	コミュ	ちゃべちゃべサロン「タイムカプセルをつくる」開催。@潮騒レストラン

## 4月7～11日 ●大谷地区での片付け手伝い

アーティストの南条嘉毅さん、カミイケタクヤさん、大川友希さん、国立歴史民俗博物館の川村清志さん、川邊咲子さん、舞台監督の伊東龍彦さんとともに、大谷公民館、広栄寺などの片付けと不用品の廃棄のお手伝いをしました。震災によって出た廃棄物を収集場所が、市内3箇所に設置され、連日運搬車両の行列が見られました。



## 5月19日 ●「家仕舞い」のお手伝い

珠洲市大谷地区馬縹に暮らす南方治さんのご自宅の解体が決まりその家仕舞いのお手伝いをしました。2023年の奥能登国際芸術祭で、南方さんのお父さんの手記をもとに作品制作を行った作家の弓指寛治さんも参加され、一緒に片付けをしながら、家にまつわる思い出などお話をうかがいました。



## 6月1,2日 ●北山集落の草刈り

珠洲市若山地区の北山集落は震災により地割れ等発生し、全世帯が集落から避難しましたが、集落を維持する草刈りのために各避難先から住民が集まりました。集落に作品「ボトルシップ」がある小山真徳さんは前日に実施された作品修繕の活動とともに、集落の草刈りにも参加しました。



## この頃の珠洲

震災後に断水が続き、枯れた田んぼの風景が広がっていましたが6月中旬には水が通り始め、稲穂が風にそよぐようになりました。人の手が入ってこそその里山の風景なのだ改めて知りました。  
飲食店は少しずつ、営業を再開していました。昼食を買いに「フードはまおか」に寄ると、正院町にある寿司店「かつら寿司」のお寿司がパックされて並んでいるのを見つけ、嬉しくなりました。居酒屋「あさ井」では、休業していた櫻田酒造の「大慶」がメニューにあり、即注文。珠洲のお酒はおいしい米の味がします。  
狼煙漁港を高台から眺めていたら、竹林から現れたおじいちゃんから、とれたてのタケノコをおすそ分け頂きました。日々の作業終わりに入っていた自衛隊風呂は、単管とブルーシートで組まれた大きな浴槽が気持ちよく、有難かったです。



7月11日~12日	作品	STM作品(上演プログラム)の修正を行った。
7月14日	コミュ	ちゃべちゃべサロン「学校って何だろう」vol.2開催@ガクソー金沢支店
7月15日	珠洲	珠洲市復興計画策定委員第1回有識者会議へ北川フラム登壇。
	コミュ	ちゃべちゃべサロン「熱交換会(仮)」vol.1開催。@海浜あみだ湯階
7月17日	珠洲	震災後、金沢方面から珠洲市へ向かうのと里山街道で片側通行となっていた徳田大津IC⇄のと里山空港IC間の対面通行が再開。
7月26日~28日	ア	ひびのこづえダンス PJ開催。@野々江総合公園
7月29日~31日	作品	STM会場全体のメンテナンス。
	作品	中島加耶子作品会場の修繕見積もりを、地元の工務店、建築家、アーティストと行った。
8月2日	コーデ	日本経済同友会事務局スタッフの奥能登視察。
8月4日	コミュ	ちゃべちゃべサロン「学校って何だろう」vol.3開催。@ガクソー金沢支店
8月2日~28日	珠洲	地区住民意見交換会の第二回目が、市内全10地区で開催された。
8月10日	拠点	潮騒レストランの営業再開。(週3日の営業)
8月11日	コミュ	ちゃべちゃべサロン「学校って何だろう」vol.4開催。@ガクソー金沢支店
8月11,12日	記録	甲斐賢治さん、奥能登アーカイブ事業について、珠洲での展開方法検討のため珠洲市内視察。
8月13日	珠洲	馬縹地区で「砂取節まつり」開催。村尾かずこさんと、弓指寛治さんが参加した。
8月14日	コーデ	加藤勝信さん(衆議院議員)視察 ▶内浦側で津波の被害の大きかった宝立町をはじめとした被災地と、外浦側ではスズ・シアター・ミュージアムの視察を行った。
8月17日	コミュ	ちゃべちゃべサロンvol.2「民具を使ったお茶会」開催。@潮騒レストラン
8月18日	手伝い	飯田町の「スメル館」解体に先立って備品等の搬出作業手伝い。
	記録	「スメル館」家主への取材。
	コミュ	ちゃべちゃべサロン「熱交換会(仮)」vol.2開催。@海浜あみだ湯階
	コミュ	ちゃべちゃべサロン「学校って何だろう」vol.5開催。@ガクソー金沢支店
8月31日	珠洲	能登半島地震の被災地で続けられてきた自衛隊の災害派遣活動が8月31日に終了。自衛隊による入浴支援も同日終了。
9月3日	記録	ヤッサープロジェクトのインスタグラム開設。
9月11日	珠洲	蛸島の早船狂言とキリコ祭り開催
9月14日	作品	さわひらき作品会場の修繕箇所の確認。修繕検討。
	珠洲	正院のキリコ祭り、寺家のキリコ祭り開催、上戸のきやらげ披露。
9月15日	手伝い	大谷地区の解体予定家屋にて、民具等の収集・保管作業。
	コミュ	ちゃべちゃべサロン「ブティックすず」開催。
9月20日	珠洲	飯田のキリコ祭り開催
9月21日~	拠点	豪雨被害により浄化槽が破損したため水回りの使用が不可となり、潮騒レストラン休業。
9月22日	手伝い	経済同友会のリーダーシッププログラムの奥能登視察が、豪雨のため中止となる
9月25日	珠洲	野々江のキリコ祭り開催
9月29日~30日	作品	全常設作品、及び周辺の豪雨被害の確認。ヤッサープロジェクトのホームページリニューアル。
9月30日	記録	

## 珠洲のキリコ祭り

例年7~10月は「キリコ祭り」が開催されますが、2024年は、開催を見送る地区も多くありました。祭りを開催した地区も、震災後の復旧・復興の中で、状況に対応しながらの開催となりました。



## 7月28-30日 ●能登半島地震 珠洲応援ダンスプロジェクト

2017年の第一回奥能登国際芸術祭より参加し、ダンスパフォーマンスを開催してきたひびのこづえさんが、芸術祭に向けてデザインしたSUZUTAオルの売り上げを財源に、珠洲市内の公園でダンスプロジェクトを開催しました。連日天気恵まれ、子どもたちが元気いっぱいにはしゃぐ声が公園に響きました。三日間の上演で、珠洲市内外から約90名の方がいらっしゃいました。



「RYU」@野々江総合公園

## 8月13日 ●砂取節まつり

馬縹地区で開催された「砂取節まつり」へ、アーティストの村尾かずこさん、弓指寛治さんが参加しました。村尾さんは、避難所での食生活を支えた沢山のサザエの貝殻を使って、住民やボランティアの人たちと「サザエキリコ」も制作し、祭り当日は「サザエみこし」を皆で担いで海岸を練り歩きました。会場となった馬縹地区の自主避難所(2024年内に閉鎖)の空には、「いつかまた帰ってこられるように」という願いを込め、映画『幸せの黄色いハンカチ』にちなんで黄色い布が空に向かって張り上げられていました。祭りにあわせ、この布に弓指さんが書いた「縹」の文字をモチーフとしたTシャツが作られました。



## 8月18日 ●「スメル館」片付け手伝い

1952年に飯田町に開業した映画館「スメル館」が、震災の影響により、隣接する母屋とともに8月中旬に公費解体されました。1976年に閉館して約30年後に開催された奥能登国際芸術祭2017においてアーティストの南条嘉毅さんが「シアターシムール」として作品化し、そのあとは作業場などとして使われていましたが、解体に先立って、映画館内に残されていた上映用スクリーンや映写機、観客席、看板など備品等運び出しました。



10月9日～12日	作品	コンスタンチーノフ作品の撤去と、保管作業。
	作品	さわひらき作品会場の豪雨被害確認、一部清掃。
	作品	STM分館の豪雨被害確認、一部清掃。
10月12日	珠洲	日置地区折戸集落にて神輿の巡行。
10月18日	作品	さわひらき作品会場の泥掻き、床下通気など豪雨被害への応急処置。
10月19日～20日	作品	コンスタンチーノフ作品の撤去と、保管作業。
10月22日	作品	ポノマリョフ作品の周辺確認。
10月24日～25日	記	甲斐賢治さん視察ツアー開催。アーカイブ活動の拠点となる物件の視察。
11月4,5日	ア	「奥能登珠洲支援復興アート販売会」開催@AFG本社。
11月9日	他	経済同友会の能登半島地震支援イニシアチブ「のとマルチセクター・ダイアログ」にてヤッサーPJの活動報告。
11月10日	コミュ	ちゃべちやべサロン「熱交換会(仮)vol.3開催。@海浜あみだ邊階
11月15日～17日	ア	ひびのこづえダンスPJ・WS開催。
11月16日	ア	「さいはての朗読劇」が江の島でチャリテイイベントを開催。
11月19日	手伝い	ボランティア作業。民家の屋根保全のための瓦葺りし作業のお手伝い。
11月20日	会	大谷地区の方々との懇談。
11月20日～22日	作品	STM分館周りの泥掻き作業等、豪雨被害への応急処置。
12月4～24日	珠洲	地区住民意見交換会の第二回目が、市内全0地区で開催された。
12月7日	作品	山本基作品の今後についての検討。
12月7～8日	会	吉見俊哉氏が率いる研究チームの視察。 「奥能登のアーカイブを考える」というテーマで珠洲の関係者と意見交換。
12月11日	他	「外浦の未来を考える会」と、今後の活動とヤッサーPJとの連携について懇談。
12月12日	記	奥能登アーカイブ打合せ。
	会	サポートズ理事会での活動報告会 ヤッサーPJの2024年の活動、2025年の予定を報告。2025年についても、サポートズとアートフロントギャラリーで連携しながら、ヤッサーPJの事務局を担うことを確認。 ヤッサーPJ座談会開催。プロジェクト関係者で2024年を振り返った。
12月21日	会	芸術祭実行委員役員会でヤッサーPJの2024年の活動、2025年の予定について報告。
12月25日	珠洲	震災後、トンネル内の崩落や土砂崩れなどで通行止めとなっていた輪島市門前町と珠洲市間を結ぶ国道249号線沿岸部で、2つの迂回路が開通。
12月26日	珠洲	震災後、大谷小中学校校舎に開設された避難所が、仮設住宅の完成に伴い閉鎖、住民の引っ越しが行われた。
12月27日	珠洲	珠洲市復興計画(案)が珠洲市のホームページにて公表2025年1月25日を締切としてパブリックコメントの募集開始。

10月9-12日、19-20日 ●コンスタンチーノフ作品撤去

第1回展である奥能登国際芸術祭 2017に制作され、その後も常設の作品として親しまれていたアレクサンドル・コンスタンチーノフの作品「珠洲海道五十三次」の解体、撤去、保管作業を行いました。各バス停は、立地や周辺環境に応じてデザインされた造形物で囲われ、実際にバス停としても使われ続けていました。しかし、震災により建物自体の損傷も激しく、珠洲市内の別所にて一時保管中です。現在バス停留所は、仮設住宅が建設された場所へ移ったり、すでに解体された箇所もあります。



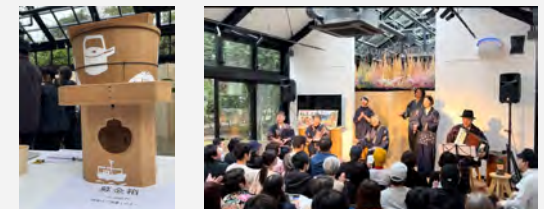
11月15--17日 ●能登半島地震 珠洲応援ダンスプロジェクト

今年の7月に続き、ダンスプロジェクト 第2回目開催。  
珠洲の海からインスピレーションを得て生まれたパフォーマンス「WONDER WATER」は奥能登国際芸術祭2017で発表され、その後全国各地で公演が重ねられてきました。  
野々江総合公園でのダンスパフォーマンスは、両日ともお子さん連れのお客さんで賑わい、84名いらっしゃいました。同期間中、宝立小中学校・スズカ・日置公民館と市内3カ所でジャグリングのワークショップも開催されました。お手玉が得意なおばあちゃん、全身を使って挑戦する子供たち、多くの方が体を動かして温まりました。  
本事業は、「石川県能登半島地震地域コミュニティ再建事業」の一環として実施されました。



11月16日 ●『珠洲の話しようよ、江の島で～民話編～』

2022年、2023年にスズ・シアター・ミュージアムで演劇公演を行ってきた「さいはての朗読劇」が、藤沢市を拠点に活動する建物を持たない劇場「ランドスケープシアター」と組んで、令和6年能登半島地震、9月の豪雨災害に対する支援を目的としたチャリティートークを開催。演出家の長塚圭史さん、詩人の大崎清夏さん、作曲家の阿部海太郎さん、俳優の常盤貴子さんが登壇しました。珠洲市からも民話や昔話の読み聞かせを行っている「どんぐりの会」の皆さんが招かれ、珠洲の現状などが話されました。



大谷地区の避難所で食事のサポート

能登半島地震によって輪島方面へのトンネルが崩れ、珠洲市飯田町へのアクセスも悪くなった大谷小中学校(避難所)へ潮騒レストランで店長をしていた加藤さんが、長期に渡って食事のサポートを行いました。地区の有志の消防団にも参加し、町の見回りなども行いました。





御神燈

奥能登

御神燈

勢

御神燈

親善社



奥能登すず  
ヤッサー  
プロジェクト 2024年 活動報告



URL : <https://oku-notosuzu.com/about>  
mail : [okunotosuzu@artfront.co.jp](mailto:okunotosuzu@artfront.co.jp)